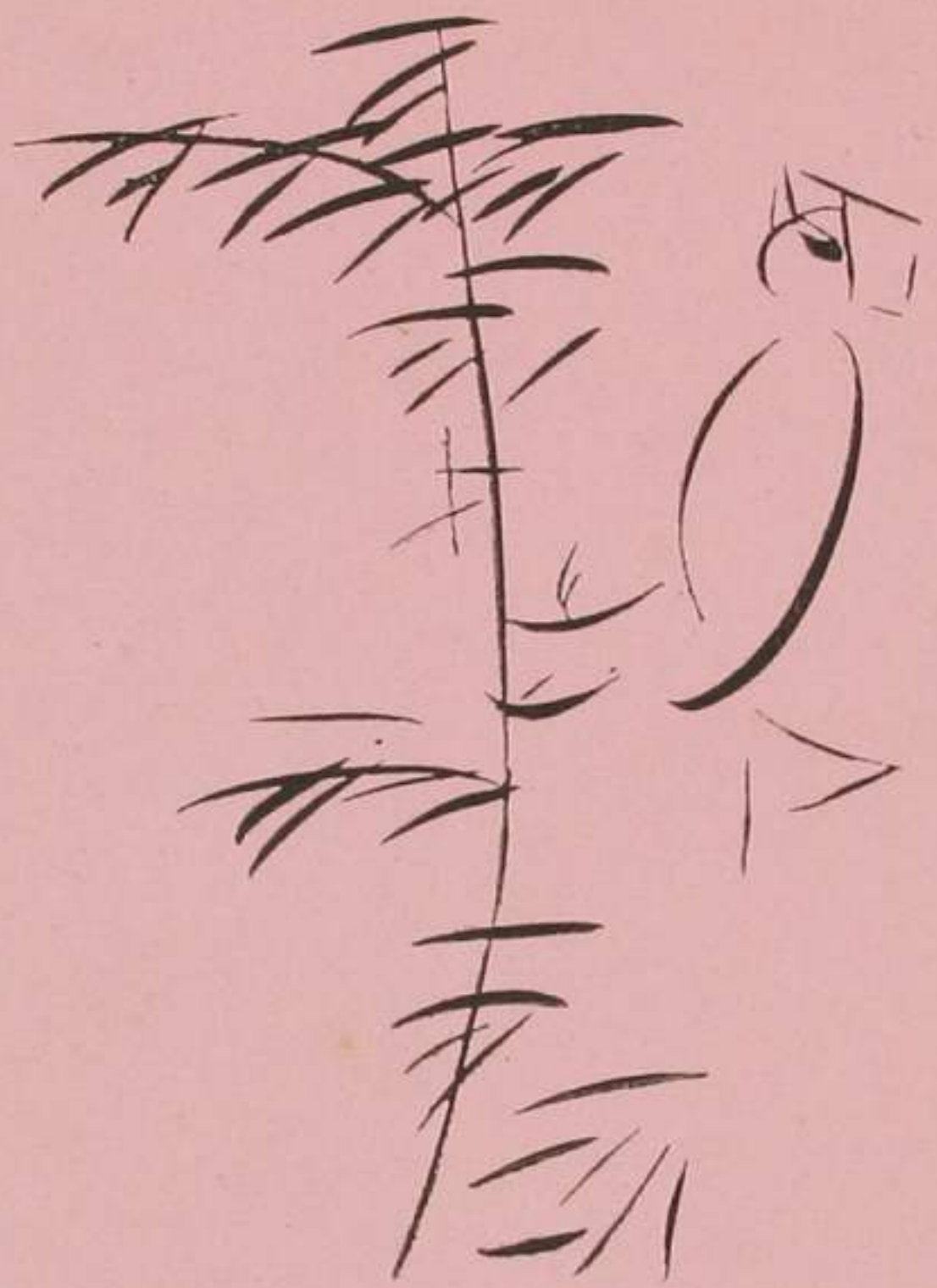
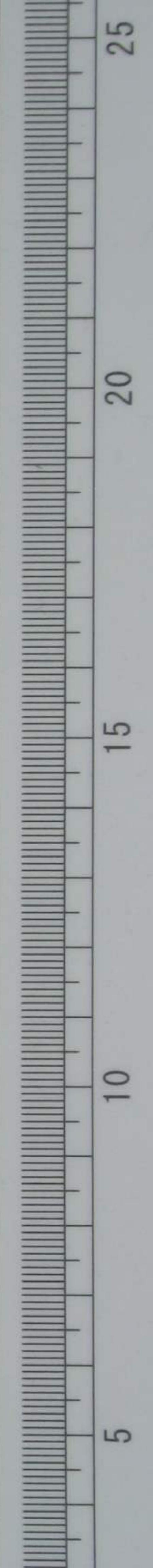




雀 唄 水



ト、レ、フ、ン、パ、欸、白
6
ス、ル、ア、座、銀、京、東





白秋パンフレット

- 第一輯 短唱 月光微韻 既刊
第二輯 短章 落葉松 既刊
第三輯 短章 初冬の星 既刊
第四輯 詩集 動き来るもの 十月刊
第五輯 民謡體短章 薄陽の旅 十月刊
第六輯 小唄 雀の頭巾 十月刊

定價各冊參拾錢 送料貳錢

白秋パンフレットの言葉

この白秋パンフレットはわたくし自身の詩歌、小品、評論、隨筆等、その種類の何たるを問はず、成るに従て隨時一々の小冊子として刊行するものである。たとへば一莖の甘藍若くは一類の林檎のごとく、新鮮に、而かも最も簡易に衆人の眼に觸れ手に觸れ心に觸れむことを希ふものである、わたくしは貧しかつた。それ故にかうした値廉きこの種の刊行はかねての本願であつた。で、わたくしは同時に童謡或は民謡の普及版をも順次に公刊する。ただ此のパンフレットは如上の二種の歌謡を除き、その他の創作、中にも主として新作を旨とするつもりである。なほ、未刊の舊作、或は既刊の物でも極めて特殊な作品として分冊の必要がある場合には、稀には輯録することもあるだらうと思ふ。而して世の富者には一方思ひきり資を凝らした高價の珍藏書として類別蒐集したい微笑をも許してほしく思ふ。

大正十一年夏

北原 白秋

雀の唄巾

小唄

北原 白秋 著

白秋パンフレット第六輯

小序

自然の寂び、愁人の寂び、その心を心として、假りに姿を小唄に變へたる、ありのすさびの試みのみ。三味の手の遊びにも、おなじ寂びしきためいきのあながちならぬ處まじさを知りたまふべし。歌と小唄の優り劣を見たまへと云ふにはあらず。

白秋

目次

日の暮	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一
時雨に月	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	二
破れ障子	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	六
笹原雀	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	八
甘樂の秋	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	〇
初冬短曲抄	九章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	三
島の山中	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	三
山の枯草	三章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	四
ふくら雀		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	七

日の暮

1

枯れがれの唐黍の秀に雀めてひ
 ようひようと遠く日の暮の風

日の暮は、
 ほつりとまつて、雀が一羽、
 何の木に、
 木ではござらぬ、唐黍がらに、

I

風はひようひよう、みぞれ風。

2

ほつほつと雀飛び出る薄の穂
日暮まぢかにながめてゐれば

ほつほつと、

雀飛び出る枯穂の薄、

日の暮に、

閑ぢやござらぬ、釣棹肩に、

影もひようひよう、土手の下。

時雨に月

1

入りいそぐ時雨の船か蘆の外に
まだはみ出して梶大いなる

泊りいそぐか、

時雨の船か、

梶だけは

まだもはみ出て、蘆の外。

ええ、そのうしろ梶とは、ヤレソレ、頼り無や。
ソレソレ、日が暮れる。

2

風立ちて雁啼きわたる横雲の今宵の
月夜けるかなるかも
せかせかと煙立てたり蘆間近く良夜
の船か夕炊ぎする

泊り船かよ、
今宵の月か。

せかせかと。

煙立ってます、蘆がくれ。
え、その晩饗の支度が、ヤレソレ、頼り無や。
ソレソレ、雁が啼く。

破れ障子

1

山松の音のさわたる日の暮は夕焼の赤き
空もすべぞなき
山松の音のとわたる日の暮は障子早く閉
めてひとり飯食ふ

赤い夕日か、

山松風か。

ひとり飯食ふ、破れ障子。

この暮に、

早やも閉めたが、ええそりや、無理かいなア。

2

折ふしにほうと飛び立つ羽根の音雀
ぞと思へばほとほとさびしき

ほうと飛び立つ

雀の羽音。

ひとりかじかむ、破れ障子、

この春を、

まだも閉めたが、ええそりや、無理かいなア。

笹原雀

1

風が寒いか、

笹原雀、

吹かれ吹かれて、ちりちりと。

ええさ、ちりちり、はらはらと。

さアさ、何でもよいわいな。

2

雪がつもるか、

笹原雀、

絶り絶りて、はらはらと。

ええさ、はらはら、さらさらと。

さアさ、何でもよいわいな。

甘樂の秋

1

眸あきのさいがち目に枯れがれて、ヨウ、
 今朝けさは雀すずめもちりぢりと、
 秋あきも末すえなりや、わが世も末よ、
 見れば妙義みょうぎも早はやや霏あめかよ、
 ええ、サテ、早はやや霏あめかよ。なあ。

2

桑あしの中道なかつちうだう俚りで行けば、ヨウ、
 赤い夕陽ゆふひがちらちらと、
 秋も末すえなら、わが身も末よ、
 遠い端山はなやまは早はやや時雨ときりかよ、
 ええ、サテ、早はやや時雨ときりかよ。なあ。

初冬短曲抄

かやに

かやにかやの實、

椎にしひ、

ええ、さて、どんぐりの木にはどんぐり
てもさても、どんぐりの木にはどんぐり

けやき

檉けやきひよるひよる、

ばらばら、くぬぎ、

山はからから、冬のかせ。

ええそれ、山はからから、冬のかせ。

色の黄なのは

色の黄きなのが女な郎な花は、

さて、しろいのは男おとこ郎な花は、

ええ、それ、さりとは誰たがきめた、

ええ、それ、さりとは何い時つきめた。

しよんがへ。

萱は

萱あしはらは枯かれても

陽ひはかげつても

せめて、龍りゅう膽たんの花はななりと、

ええ、それ、せめて龍りゅう膽たんの花はななりと。

薄は

薄は薄、
蘆は蘆、

冬の風なりや音も立てましよ、
ええ、それ、冬の風なりや音も立てましよ。

松の生木で

松の生木で、生木で、
そぎつばなしたおもちやの小雉子、
物は云はねど、
父者戀しや、
母者戀しや。

からまつは

からまつは、

風も無いのに、

つい、ほろり、

ほろり、はらはら、

風も無いのに、ほろり、はらはら、おもしろや。

關西の秋二曲

かやの實ひろひ

かやの實拾ひに行きやせぬか。

いえいえ、そちらは栗山や。

栗の實落しに行きやせぬか、

いえいえ、そちらはかや山や。

どんぐりばかり

あら、まあ、どうしたことかいな、
どんぐりばかり拾よつて。

どんぐりばかりある山や、
どんぐりばかり拾うたて、
ちとをかしかあらへんが。

へえ、まあさうしたことかいな。

島の山中

1

亞米利加松吹く日中の風は
幽かなかなりやこそ、
目がさめた。

2

羊齒の深みに葉づたふ露の
細こまかなりやこそ、
日も闌けた。

山の枯草

小笠原父島の枯草に非常に香の高いのがある
香水の原料になるといふ

1

山の枯草

枯れたはよいが、

なまじ、なまなか、香が強い。

2

山の名なし草、

枯れたはよいが。

なまじ、枯れたで、香が高い。

3

枯れりや枯れたで、

枯れ草のかをり、
なまじ、山中、香が深い。

ふくら雀

喜撰替唄

ふうとして、

ふくら雀がむちやくちやふくれ。

ヨウイヤサ

コレワイナ

ええさ、腹が立つ、腹が立つ、

あちよにもかちよにも、ヤンレ、どもならぬ。

ヤアトコセ

ヨウイヤサ

アリヤリヤ、これわいな、

このなんでもせへ。

雀の頭巾

定價 參拾錢

有所權版

刷印日七月十年一十正大
行發日十月十年一十正大

秋白原北者作者

者表代スルア社會賣合

雄鐵原北者行發
號五地新町張尾座銀區橋京市京東

郎太源本山者刷印
地番五十四町堅久區川石小市京東

子金本製

發行所
東京橋區
銀座尾張町
會社
ア
ルス
電話銀座二一八九三番
振替東京二四八八八番

白 秋 童 謠

北原白秋氏著

菊 版 定價各册參拾五錢
二度刷美本 送料各册二錢

第一輯	螢	第一輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫
第二輯	夢	第二輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫
第三輯	の	第三輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫
第四輯	小	第四輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫
第五輯	山	第五輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫
第六輯	函	第六輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫
	莓			

アルス詩歌集

		定價	送料
北原白秋氏著	詩集觀相の秋	1.80	.17
北原白秋氏著	白秋詩集第一卷	2.80	.17
北原白秋氏著	白秋詩集第二卷	2.80	.17
北原白秋氏著	抒情小詩 わすれなぐさ	1.80	.13
北原白秋氏著	白秋小唄集	1.80	.13
北原白秋氏著	民謡集日本の笛	2.80	.18
蒲原有明氏著	有明詩集	3.50	.23
三木露風氏著	象徴詩集	2.80	.18
三木露風氏著	抒情小詩 生と戀	1.80	.13
室生犀星氏著	室生犀星詩選	2.20	.17
日夏耿之介氏著	詩集黒衣聖母	2.50	.17
日夏耿之介氏著	詩集轉身の頌	2.50	.17
萩原朔太郎氏著	詩集月に吠える	2.50	.17
北原白秋氏編	第二木馬集	1.80	.15